

報道資料

(浜松市政記者クラブ、浜松経済記者クラブ、静岡県庁社会部記者室資料配布)

浜松を光の先端都市に～浜松光宣言 2013

2013年6月11日

国立大学法人 静岡大学

学長 伊東 幸宏 (いとう ゆきひろ)

国立大学法人 浜松医科大学

学長 中村 達 (なかむら さとし)

学校法人 光産業創成大学院大学

学長 加藤 義章 (かとう よしあき)

浜松ホトニクス株式会社

代表取締役社長 晝馬 明 (ひるま あきら)

国立大学法人 静岡大学 (静岡市駿河区)、国立大学法人 浜松医科大学 (浜松市東区)、学校法人 光産業創成大学院大学 (浜松市西区)、浜松ホトニクス株式会社 (浜松市中区) は、本日、浜松を光の先端都市にするための浜松光宣言に調印しました。

<4 機関代表者の抱負>

静岡大学 学長 伊東 幸宏

静岡大学は、テレビジョンの父高柳健次郎を祖とする電子工学研究所において、我が国で唯一、イメージングデバイス及びイメージングデバイスに特化した光・電子技術の研究を行っている。本学はこの特色を活かして、「時空を超えて光を自由に操る」ことを目標に常識を超えた空間分解能・時間分解能を実現する光技術と光の波長・位相・強度を自由に操ることができる技術の確立を目指す。

本学は地域社会とともに歩み、社会が直面する諸問題に真剣に取り組み、文化と科学の発信基地として、社会に貢献していくことを使命の一つとしている。「光研究」を通じ豊かな生活環境を構築し、社会や人との関わりを楽しみ健やかな生活を送ることができる社会の実現に貢献するとともに、地元浜松を我が国の、ひいては世界の「光の先端都市 HAMAMATSU」へと創造する役割の一端を担いたいと考えている。

浜松医科大学 学長 中村 達

浜松医科大学は、建学の理念として、「第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献すること」を掲げている。

開学以来、診療と研究いずれにおいても、光で医学に貢献し光技術を医学に活用すること

に取り組み、1991年には浜松ホトニクス社の寄附講座を前身とする、世界でも珍しい「光を使った医学の研究を行う『光量子医学研究センター』」を設立した。その後、光量子医学研究センターと分子イメージング先端研究センターを発展的に統合して『メディカルフォトニクス研究センター』を発足させた。

現在、本学は同センターを中心として、国内外の大学・企業と共同で研究を行い、世界にキラリと光る大学として存在している。無限の可能性を持つ光の重要な応用対象は医学・健康関連科学・生物学であり、本学は、今後もそれらの領域におけるけん引役として「光の先端都市 HAMAMATSU」の発展に貢献していきたい。

光産業創成大学院大学 学長 加藤 義章

光産業創成大学院大学は、『光を用いて未知未踏の新しい産業を創成しうる人材を養成する』ことを建学の精神として、技術と経営が互いに連携・融合する教育により、創造性と起業家精神にあふれる新時代の起業家・事業家の育成に取り組んでいる。

光科学・技術が世界的に生活・医療・環境・エネルギー産業に与えるインパクトは益々大きくなり、光産業創成への本格的な取り組みが多く、多くの国で開始されている。

この浜松光宣言の趣旨は、『生命の惑星地球、そこに生存する人類とその文明の健全な未来の構築、及び我が国の尊厳と国民の幸福、活性度の高い国づくりに“光”をもって寄与せん』とする、初代理事長 晝馬輝夫の本学設立にかけた強い想いと合致する。本学は、浜松を始め国内外の多くの機関や研究者と連携し、「光の先端都市 HAMAMATSU」実現に取り組んでいきたい。

浜松ホトニクス株式会社 代表取締役社長 晝馬 明

浜松ホトニクスには、25年以上前から光研究拠点の考えがあった。25年前には、世界の知と連携して脳・精神科学の国際会議を始め、現在も継続している。その2年後に、浜北リサーチパーク内に中央研究所をつくり、国内外の世界トップレベルの大学や研究所と、数多くの光に関する共同研究、研究交流を進めてきた。

また、当社は、世界シェア90%以上の光電子増倍管や物理・宇宙観測で使われる学術用光半導体素子など、光電変換技術を進化させた特殊な光デバイスで世界をリードする企業と自負している。世界には、当社の光デバイスによって応用された新しい製品、新しい事業、新しい産業が生まれ、世界で大きな市場となっている。

当社にとって、浜松を光の先端都市にするのは長年の夢であり、世界的な光技術の当社が浜松に本社を置くことで、光の産業応用が進めやすい環境が整っている。『光の先端都市 HAMAMATSU』を実現するために、当社は、さらに光の未知未踏を追求し、新しいデバイスの開発に取り組み、各機関と連携して新しい応用を見つけ、新しい産業の創成に尽力したい。

浜松を『光の尖端都市』に ～浜松光宣言2013

光科学と光産業

21世紀を通じて、光科学は発展し光産業は拡大し、人類にとって光がさらに重要な役割を担う「光の時代」に到達するだろう。

光には無限の可能性がある。そして、人類はまだ、そのほんの一部しか利用していない。光の本質を解明すること、そして光を自在に操ること——人類のやむことなき挑戦は続く。そしてこの挑戦こそ、光科学と光産業を共に発展させる駆動力である。

光科学と光産業と浜松

1926年、浜松の地にテレビジョンが生まれた。

20世紀の電子産業の興隆を導き、21世紀の光産業の先駆けとなった偉業である。

浜松にはその技術を継承した光産業が興り、光科学の研究が続けられ、社会の進展に大きな役割を果たした。

光に限界がないのなら、光の産業応用はまだまだ広がり人類の幸福に対しても、さらなる貢献をなすうはずだ。

そうであるなら、テレビジョンが生まれて100年になろうとする今このとき、浜松には何ができるか？

光の尖端都市HAMAMATSUに

浜松は、日本の政治の中心でも経済の中心でもない普通の地方都市である。

それでも、世界は「浜松/HAMAMATSU」を知っている。注目している。なぜか？

光の産業応用に無限の可能性を見出し、光技術の極限に挑みつづける人々がいるからだ。

光を用いた研究や開発に多くの成果を挙げているさまざまな機関があるからだ。

だが、多くの問題をかかえる地球には人類には、「光」がもっと役立つはずであり、役立てなければならない。

われわれは、そのために、「浜松/HAMAMATSU」に「新たな使命」を与え、実現したい。

——世界の俊英が、一度はそこで学び、研究・開発をしたいと思う「光の尖端都市HAMAMATSU」に

——世界に役立つ新しい光科学、新しい光産業を創造する「光の尖端都市HAMAMATSU」に

そこでは、光を識り、光を使うことが究められる。

そこでは、世界トップレベルの光の基礎/応用研究が行われる。

そこでは、世界が望む光製品/光技術が開発される。

そこでは、世界から、光の本質を解明し、光を自在に操ろうとする学生/研究者/医学者/技術者/市民/起業家/企業/大学/研究機関が集い、刺激しあう。

そこでは、これからの光応用産業発展の主役であるベンチャー企業や中小企業が活発に活動する。

そこでは、光の面白さ、光の無限の可能性を若い世代に向け、発信し、教育がなされる。

われわれ、国立大学法人 静岡大学、国立大学法人 浜松医科大学、学校法人 光産業創成大学院大学、preeminent city 浜松ホトニクス株式会社は、「光の先端都市HAMAMATSU」を創造していくために行なえることすべてに、密接に連携して取り組んでいくものである。

2013年6月11日

<今後の活動方針>

- ・ 本「宣言」に謳う「光の先端都市HAMAMATSU」の実現を図る。
- ・ この実現にあたり、主体的で積極的な活動を行う。
- ・ 「光の先端都市HAMAMATSU」は、光の最先端の研究をめざし、世界と交流する。
- ・ 「光の先端都市HAMAMATSU」は、光の産業化を恒に意識する。
- ・ 「光の先端都市HAMAMATSU」は、ベンチャー企業等の迅速な動きに対応する支援を行う。
- ・ 「光の先端都市HAMAMATSU」は、国や県市の施策との連動を図り、我が国の基礎研究/応用研究の進展、産業競争力の強化に貢献する。

以上

この件に関するお問い合わせ先

国立大学法人 静岡大学

副学長 イノベーション社会連携推進機構 木村雅和

TEL 053-478-1704

電子工学研究所 所長 三村 秀典

本部企画部長 大内 あづさ

TEL 054-238-6350

国立大学法人 浜松医科大学

産学官共同研究センター センター長 メディカルフォトンクス研究センター

応用光医学研究部門 イノベーション光医学研究室 教授 山本 清二

TEL 053-435-2391

副学長（研究・社会貢献担当） 蓑島 伸生

研究協力課長 大森 達郎

TEL 053-435-2082

学校法人 光産業創成大学院大学及び浜松ホトニクス株式会社

広報室 海野 賢二

TEL 053-452-2141 携帯電話 090-4080-3501